

予算特別委員会

●質問者

横山 忠市 (いばらき自民党)

飯田 智男 (自民県政クラブ)

二川 英俊 (民進党)

山中 たい子 (日本共産党)

石塚 仁太郎 (いばらき自民党)

八島 功男 (公明党)

飯塚 秋男 (いばらき自民党)

横山忠市委員(自民) 茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略が策定され、一年が経過したところだが、その進捗状況などをどう評価し、今後どのように戦略を実行していくのか。

知事 四つの基本目標の十一の指標の数値目標のうち九指標でおおむね期待した成果が得られるなど、初年度の評価としては全体として一定の成果が得られた。定住人口の確保のためには雇用の場の創出が何より重要であり、今後とも企業誘致など魅力ある仕事の創出に取り組んでいく。市町村はもとより大学など多様な主体と連携・協力し、戦略に掲げた施策に全力で取り組み、本県の地方創生の実現を目指していく。(ほかに、鹿行北部の農業の振興、県道水戸神栖線の整備なども質問)

飯田智男委員(自民) 大規模災害の発生時に、県外から応援に駆けつけていただく緊急消防援助隊航空部隊の消防・防災ヘリが効率的に運用されるよう、受援体制や燃料供給体制などの整備強化を進めるべきと考えるが、今後の取り組みは。

生活環境部長 燃料供給拠点の複数設置や、効率的な燃料補給体制の整備などを「緊急消防援助隊航空部隊受援計画」に反映させ、受援体制の強化を図ることに伴い、災害時の救助活動などに支障を来すことがないように、消防・防災ヘリの効率的運用に資する環境の整備に努めていく。(ほかに、高次脳機能障害者への支援、工業技術センターの取り組みなども質問)

二川英俊委員(民進) 市町村庁舎など災害発生時に防災拠点となる施設について、エネルギーの確保を含む非常用電源の設置や設備の耐震対策などを進める必要があると考えるが、電源、エネルギー確保にどう取り組むのか。

生活環境部長 非常用電源について、災害対策本部を設置する庁舎では、県内四十四市町村のうち八市町で未整備であり、整備済みの三十六市町村の中でも七市町では耐震化されていない状況にある。県では、これら市町を訪問して早期の整備を働き掛けるとともに、停電の長期化に備え、非常用電源を七十二時間以上使用可能とするよう燃料の備蓄などを呼び掛けている。(ほかに、平成二十九年度の予算編成方針と財源確保なども質問)

山中たい子委員(共産) 租税債権管理機構の在り方を問題にしていたが、知事は、「別組織であり、県が関与する立場にない」と繰り返している。しかし、機構には県職員やOBが派遣され、県からの財政支援があり、県合同庁舎内に無償で事務所を置いている。県の関与を認め、機構を廃止し徴収事業を市町村に戻すべきだが、所見は。

知事 市町村税の滞納整理という性格上、県は一部事務組合の構成員になることができない。このため、機構に対して、県から法的な立場で指示を出すことはできないが、機構では県の意向を踏まえて適切な活動を展開し滞納整理に大きな役割を果たしてくれている。(ほかに、医師確保策、東海第二原発の再稼働中止なども質問)

石塚仁太郎委員(自民) 一人でも多くの大学新卒者に、本県を就職先として選んでいただけるよう取り組み方策は、本県の労働力人口を確保する上で有効と考えるが、所見は。

商工労働観光部長 学生に県内企業の情報積極的に発信し、その魅力を理解してもらうなどの取り組みは、本県への人材の還流と定着を図る上で大変有効と考える。このため、大学や経済団体などを構成員とする「大好きいばらき就職応援くらぶ」や県の就職情報サイトを通じて、就職関係のさまざまな情報を発信している。また、学生の就職に影響が大きいと言われる父母向けの取り組みにも力を入れていく。(ほかに、地球温暖化対策、学校での地震対策なども質問)

八島功男委員(公明) 「つくば霞ヶ浦りんりんロード」については、県道区間の約八十一キロが開通したところであるが、今後の拠点整備の展望は。

企画部長 昨年十月に策定したガイドラインに基づき、自動車から自転車に乗り換えられる施設や、公共交通から自転車に乗り換えられる鉄道駅などの施設を中心に、サイクリストのニーズを満たす高い水準の機能を持つ施設を整備するほか、ポケットパークや自転車サポーターステーションなどについても沿線市町村や民間事業者などと連携しながら、拠点施設整備をはじめとする環境整備に取り組んでいく。(ほかに、第十七回世界湖沼会議の準備加速、児童生徒の問題行動等調査と指導上の諸問題なども質問)

飯塚秋男委員(自民) 地下鉄八号線について、昨年四月の交通政策審議会

の答申で、県内延伸に関する記述が初めて盛り込まれたが、これを受け、今後、県としてはどのように地下鉄八号線の県内延伸に取り組むのか。

知事 答申に茨城県に関する記述が初めて盛り込まれ、大変喜んでいる。今後、県内延伸に向け、定住人口や交流人口の拡大に取り組み、鉄道整備が必要とされる状況をつくっていく。この地域の担う首都圏の防災機能のあり方や野田市までの延伸の動きを踏まえ、五年ごとの県総合計画改定の際には、本県の将来像などにも適切に反映させながら取り組んでいきたい。(ほかに、茨城の将来像と県西地域の振興策、本県の魅力度向上なども質問)



12月20日に行われた予算特別委員会の様子

出前委員会を開催しました

県議会では、開かれた議会を目指し、初めて議事堂以外の場所において文教警察委員会(村上典男委員長)および保健福祉委員会(石井那一委員長)を開催しました。

両委員会とも、地元の高校生をはじめ多くの傍聴者が訪れ、身近な教育問題や少子化対策に係る審査の様子を熱心に傍聴しました。

〔文教警察委員会の開催結果〕

○日時 十月二十七日
○場所 久慈川日立南交流センター
○テーマ 「子どもたちの自主性・自立性の育成」

・就学前教育の充実
・家庭・地域の教育力の向上
・豊かな心と健やかな体を育む教育の充実



文教警察委員会の様子

〔保健福祉委員会の開催結果〕

○日時 十一月十六日
○場所 土浦合同庁舎
○テーマ 「少子化対策の充実と子どもから高齢者まで安心して暮らせる社会を目指して」

・結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
・援護を必要とする子ども達への支援
・高齢者の活躍促進



保健福祉委員会の様子